

令和 2 年 6 月 13 日現在

機関番号：23903

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03554

研究課題名(和文)医療者の行動特性に関する研究—実験経済学および生理学アプローチ

研究課題名(英文)The study on medical school students behavior -an experimental economics and physiology approach

研究代表者

濱口 泰代(Hamaguchi, Yasuyo)

名古屋市立大学・大学院経済学研究科・准教授

研究者番号：70399038

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、医学部の学生の向社会性に関して、「信頼ゲーム」と呼ばれる経済実験を行うことによって数量的に計測することであった。様々な学部 of 学生を集めて実験をすることは、事務的な手続きが非常に多かった。本研究費からORSEEという被験者リクルートシステムを導入することができ、非常に効率的に被験者集めを行うためのインフラを整えることができた。最終年度において、3年間準備してきた経済実験をようやく実施することができた。2020年3月に計画していた実験は、新型コロナ感染予防のため実施することができなかった。そのため、計画していたよりも十分な実験データを集めることができなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

医療従事者の行動を、行動経済学や実験経済学の観点から研究することは、これまでほとんど行われていない。医療職を目指す学生が、どのような行動特性を持つかを理解することは、医療の現場特有のチームワークの問題を理解する上で重要である。

本研究では、計画していたよりも少ないデータしか集めることができなかったが、信頼ゲーム等のいくつかの経済実験を行うことによって、行動特性を調べるための実験を実施することができた。向社会的選好と金銭的動機とが、どのようなゲームの状況でトレードオフの関係になるかを調べることは、経済学の論理を用いて社会的余剰を最大にするためにも、社会的意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this investigation was to study the pro-social behavior of students majoring in medical studies. We used an experimental economics method to compare the decision making styles of medical school students and those of non-medical students. It was very hard to recruit many subjects from different faculties because of administrative barriers. Because of this research fund, we could introduce ORSEE (known as a reliable experiment recruitment system) in our university for the first time and could recruit many subjects successfully. Unfortunately, we had to cancel some experiment sessions in March because of COVID-19. Therefore, we could not collect enough data as we planned.

研究分野：実験経済学

キーワード：医療者 向社会性 経済実験

1. 研究開始当初の背景

人々の向社会的選好が、彼らの労働における自己犠牲的態度に大きく影響していることを明らかにした実証的研究が蓄積されつつある。先行研究から、高い向社会性が要求される職種においては、そのような規範に同意できる人々がその職業を自ら選び、その結果、よりパレート効率的な結果を自発的に達成している可能性があると考えられる。特に医療職は、以下のような特徴を持つことから、**医療職を目指す学生たちは、他の集団とは異なる行動特性を持つ可能性がある**。

- 医療職は非営利的であり、完全な成果主義を導入することが難しく、ほぼ固定報酬に近い。
- 医療職は、人々の生命にかかわる仕事であるので、向社会的イメージがある。
- 医療者は資格保有者が多く、強い職業的アイデンティティを持つ。
- 医療者は、満足な医療行為が出来ず、患者の健康状態を十分改善できない場合に、大きな心理的損失を感じる。

2. 研究の目的

社会的アイデンティティが経済的意思決定に無視できない影響を持つことが分かってきた。本研究は、医療者の潜在的な向社会性を調べるための第一歩として、向社会的アイデンティティを有する医学部学生を対象として経済実験を行う。具体的には、彼らの経済的意思決定の特徴を調べるとともに、生理学的な特徴に関して、他学部学生と比べて違いがあるのかを調べる。医療従事者の入口に立つ彼らの行動特性および生理学的特徴が明らかになれば、医療従事者一般の行動特性の理解へと繋がる。

3. 研究の方法

本研究期間においては、名古屋市立大学の医学部の学生と、その比較対象として、同大学の経済学部、人文社会学部、総合生命理学部の学生を対象として経済実験を行った。向社会性を測るための実験内容として、信頼ゲームをコンピュータ実験によって行った。さらに、彼らの金銭的動機と向社会性のトレードオフの関係を調べるために、行動経済学で使用されている自己申告型のコイントスゲームを行った。生理学的特徴の計測としては、テストステロンの水準と薬指の長さに関することが先行研究によって分かっているので、被験者の薬指の長さを計測した。

4. 研究成果

最終年度において、3年間準備してきた経済実験をようやく実施することができた。具体的には、医学部、経済学部、総合生命理学部、人文社会学部、芸術工学部の学生から200名余の被験者登録を行うことができ、その中から100名余の被験者に経済実験に参加してもらった。2020年の2月に計画していた「信頼ゲーム」の実験を行うことができたが、3月に計画していた「最後通牒ゲーム」の実験は、新型コロナウイルス感染予防のため、実施を計画していた大学から中止の要請があり、実施することができなかった。そのため、計画していたよりも十分な実験データを集めることができなかったため、研究成果をまだまとめられてい

ない。

本研究では、医療職を目指す学生の向社会性に関して、実験経済学の方法を用いて数量的に計測することであった。これまでも、社会的に異なる集団の行動の違いを比較した研究は、経済学だけではなく他の分野にも多くあるが、本研究では、医療者を目指す学生が、それ以外の学問分野を目指す学生と比べて、すでに、向社会性等について行動規範が異なるのかを調べることであった。内容的には単純な研究であるが、実際に他学部の学生を集めて実験をすることは、事務的な手続きが非常に多かった。しかし、本研究費から ORSEE という被験者リクルートシステムを導入することができ、非常に効率的に被験者集めを行うためのインフラを整えることができた。ORSEE は実験経済学の分野で国際的にも認められた被験者リクルートシステムであり、このシステムを用いて被験者をサンプリングしたことは、実験データの信頼性を上げるためにも重要であった。研究分担者の飛田先生および五藤先生と共同研究を進めたことは、経済学以外の観点から人間の情動と行動の関係について知るために大変有益であった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

被験者募集サイト
<https://orsee.ncueconlab.com/orsee/public/index.php>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	飛田 秀樹 (Hida Hideki) (00305525)	名古屋市立大学・医薬学総合研究院(医学)・教授 (23903)	
研究分担者	五藤 孝秋 (Goto Takaaki) (00774449)	名古屋市立大学・医薬学総合研究院(医学)・研究員 (23903)	